

## 第6回白河市複合施設整備基本計画検討懇談会 議事録

- 1 日 時 令和2年11月4日(水) 13:30~15:00
- 2 場 所 白河市役所本庁舎 4階 全員協議会室
- 3 出席者
  - 会 長：市岡 綾子 (日本大学工学部 専任講師)
  - 副会長：藤田 龍文 (株式会社楽市白河 取締役副社長 (白河市中心市街地活性化協議会))
  - 委 員：池下 和子 (特定非営利活動法人あったかたいむ 代表)
  - 金子 善弥 (白河市生涯学習推進会議 委員)
  - 菊地 一寛 (白河市健康づくり推進協議会 委員)
  - 鈴木 茂毅 (白河医師会 会長)
  - 鳴島 あや子 (白河市公民館運営審議会 副委員長)
  - 事務局：鈴木 市長公室長、深町 企画政策課長、仁平 地域拠点整備室長  
八巻 主任主査、関根 副主査
  - その他：(株)オリエンタルコンサルタンツ3人(山本、粟田、川村)
- 4 次 第
  1. 開 会
  2. 議 事
    - (1) 複合施設整備基本計画(案)について
    - (2) その他
  3. 閉 会

## <議事概要>

### 【会長】

前回の会議から少し時間が空きましたけれども、その間、新型コロナウイルスに対する対応ということで、市役所の事務局サイドでは色々と具体的にご検討いただいたことを踏まえての本日の開催となっております。少し寒くもなりましたが、紅葉がちょうど良い時期で、気持ち良い日に皆さんとこのように再会できましたことを大変うれしく思っております。

本日は、基本計画（案）の内容について、皆さんの忌憚のないご意見をいただきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

まず、議事の（１）複合施設整備基本計画（案）について、事務局よりご説明をお願いいたします。

### （１）複合施設整備基本計画（案）について

（資料１、資料２、資料３により事務局説明）

### 【会長】

わかりました。ありがとうございます。ただいまご説明いただきました、複合施設整備基本計画（案）について、皆さんからのご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

### 【委員】

この懇談会というのは、去年の１２月から始まっていますよね。当初の予定というのは、６月ぐらいには終わるであろうということでした。やはり、３月以降に延びてしまったのは、COVID-19の影響ですね。そういった感染症の影響で、４月・５月あたりは会合する機会が殆ど無くなってしまったのですね。７月に第５回ですか。今回が第６回ということで、こういうご時世ですから、これは仕方がないということに思います。それで、私は最後の全体スケジュールのことについてお伺いしたいのですが、当初の予定ですと、６月までに懇談会が終わって、２年後ぐらいに、令和で言うと４年か５年あたりにもう施設が出来てしまうのではないかと、といった計画だったと思うのですが、これはもうこの７年というのは、仕方がないということですか。もしくは、これはもっと延びるのではないかと、といった考えはあるのでしょうか。

### （事務局）

ご指摘の部分は、昨年７月に策定した基本方針でのスケジュールとなっております。

その時には、いま委員がおっしゃるとおり、最短で4年ぐらいで完成というスケジュールを示しました。その後、昨年12月にこの懇談会を立ち上げましたが、そのタイミングでは当然その施設の規模も分かりませんでしたし、これまでご議論いただいて、ある程度、施設規模も決まってきたということと、皆様からのご指摘がありました駐車場の問題もありました。やはりその駐車場の確保も大事だろう、というご議論もいただく中で、施設の姿が粗々見えてきた段階で考えると、昨年7月に庁内の議論の中で思い描いていたスケジュールというのは、厳しかったかなというのが率直な見方をしております。その上で、今回お示したものは、通常の発注形態の形でいくと、このぐらいかかるといえるという見込みでございます。先ほど担当者が述べたように、様々な発注方法があるものですから、やり方によっては、期間が6ヶ月ぐらい前後するという可能性もあります。一方で東京オリンピック開催ということで、建築業界の情勢、建築業界も人手不足だとか資材不足、資材の高騰といった背景にありますので、一旦お示したスケジュールも、概ねこのような形ですけれども、情勢によっては変わっていきますよ、というような説明にならざるを得ないのかなと思います。そこはお含みいただいて、ご理解いただければというふうに考えております。以上です。

#### 【委員】

新型コロナの影響はあまりないのですか。

#### (事務局)

そこも多少なりともあるのだと思います。やはり工事においては、コロナ対策をした上で工事をしなくてはいけないというふうな、そういう部分も当然出てくるのだと思いますし、先がなかなか見通せない中で、1つの基準と言いますか、目安というふうなことで、ご理解をいただければというふうに思っております。

#### 【会長】

コンセプトは、皆さんの議論を踏まえた上で決めたということですので、特にご異論がなければ、このままご提案どおりということになりますが、その辺りも含めていかがですか。新しい生活様式という漠然とした言葉ではございますが、それが未来の暮らしを作り、という表現に込められている、新しいサブコンセプトとして示されています。いま過渡期を迎えている新しい市民生活を白河市から発信していきたい、という思いを込めてのサブタイトルになっているように思います。

個人的に気になったことは、39ページの図の所、37・38ページですが、「まちで働く」というところです。当然、出産・育児で一旦仕事を離れた後、もう一度、社会で働きたいという母親の方への支援という意味で、母親の就労支援となされたと思うのですが、支援の対象が母親だけという印象を与える可能性もあるように思いました。そこ

を女性と言ってしまうのがいいのか、もしくは、文言では女性や若者と書いてあるので、もしかしたらストレートに書かずに、もう少し多くの人を対象になるというイメージのほうが良いのかという点について、検討すべきではないかと個人的に思いました。と申しますのも、実は2～3日前のNHKニュースで、少子化と言っているけれども、実は母親になった人が子どもを産む数は、さほど変わっておらず、平均では2人ぐらい産んでいるということで、子どもを産む機会がない人の増加により少子化が進んでいると言われているので、どちらかと言うと、そこを母親になることに対しサポートする少子化対策の前の段階のケアも大事だ、という話題がありました。従いまして、母親とここに書いてしまうと違うイメージを与えてしまう可能性もあると思いましたが、いかがでしょうか。

#### (事務局)

母親（ママ）を、ある程度中心に考えてはいるのですが、母親の方以外、広くここに書いてあるとおり、女性・若者というふうなところもありますので、一旦持ち帰って、そのタイトルのほうは、再度検証・検討させていただきたいというふうに思います。

今回の見直しに関しては、アフターコロナというところを見据え、計画スケジュールにつきましても、世の中がどのように変わっていくのかきちんと見据えた上で、期間を延ばしまして検討しました。今回この「まちで働く」という所の表記につきましても、今まさに会長がおっしゃったような視点で考えますと、母親だけというところではなく、女性の活躍ができるようなまちづくりをするということでもあります。アフターコロナの社会を見据えた時に、そういう住みやすいまちづくりということで、母親に限らず、女性中心に、人が魅力を感じていただくとか、もしかすると、そういう住みやすいまちだということで、地方分散なんかの受け皿にもなるのではないかとということであり、そういう女性を中心に、白河で魅力を感じていただけるような、まちづくりにしたいとは考えております。なお、いま申し上げましたように、もう少し中身は検討させていただければと思います。

#### 【委員】

女性の働きやすい社会、白河にこのまま住み続けたいということは、具体的にこれから内容を決めていくのだとは思いますが、どのようにして女性の意見、住んでいる方、もともと白河出身の女性、もしくは他所から来た人、どのような形で意見を吸い上げるお考えなのでしょうか。

#### (事務局)

実際に、この女性・母親に軸を置いた、民間型のハローワークというのが、県内ですと郡山でやられているケースもあります。よく全国を見渡せば、例えば県レベルで、そ

ういった女性向けのハローワークというものを設置している事例があります。その中で、郡山にあるのが民間企業で行っているという事例であります。この施設も私たち実際、見学に行っており、意見を伺っております。その企業さんがアンケート調査を毎年やっているのですが、企業側からの提案もあり、白河市の保育園にお子さんを預けているお母さんと、幼稚園にお子さんを預けているお母さん約800名を対象に、その企業と連携をして、アンケート調査をさせていただいております。その結果がまだ出ていないのですが、自分の就労の希望ですとか、働くにあたっての解決してほしい取り組みとか、そういう項目も設けてアンケートをした結果をいま集計しております。地元にいる方はそのアンケートで何とか意見は吸い上げることができるのかなと思います。結果についても11月末ぐらいに開示予定とのことですので、公表されるのは12月以降になるかと思います。あとは転入する方、こちらに住む方の意見というのを、今後どのように把握していくのか、というふうな所が課題ではあると思います。速報値ベースでは、例えば気軽に就労を相談できるような場所が望ましいとか、そういうご意見もいただいております。ただ一方で、企業側の意識も変えてほしいというような回答もあります。子供の用事で休むことが言いづらい職場の雰囲気になっているとか、そういったこともありますので、就労環境の整備というのは、雇う側の企業さんの意識というのでも、変えていかないといけないなというふうにも感じております。いずれにしても、今後とも女性のニーズの把握に努めてまいります。

#### 【会長】

市民の方にとって、健康で笑顔になるという施設を求めていますので、既に800人の市民のお母さま方にアンケートを実施されているということですから、非常に良い反応を期待しています。

施設計画によって企業の働く環境まで変えることは難しいと思われませんが、発信する力はある程度は見込まれそうですね。またママさん方も働き方が通常通りではなく、自分のライフスタイルに合わせた形でのマッチングとなりますので、そのような形式で人材の確保を検討する企業は、すでに行われているかもしれません。フルタイムではなくとか、毎日ではなくとか、そういう様々な多様性が求められるということですね。

#### 【委員】

幼稚園・保育園にお子さんを預けているママたちも分かるのですが、例えばマイタウンの子育て支援とか、図書館に、今コロナでなかなか難しいですが、そういう人たちの意見も少しあったほうがいいかなと思ったのですが、もう調整中ですか。

#### (事務局)

施設全体のニーズについては、昨年1月に、マイタウンの利用者の方に、直接インタ

ビュー形式でのニーズを把握させていただきました。マイタウンには子育て支援の施設や子どもの遊び場があり、当施設を利用するお母さん方からも意見を伺いました。図書館については行っておりませんが、マイタウンの利用者については、インタビュー形式で調査をさせていただいた、というふうなことでございます。

#### 【会長】

今すぐ必要はないと思いますが、やはり将来の市のことを考えますと、いま白河市に在住する中学生や高校生が白河に戻ってきて働こうという魅力を感じているか、もしくは働きたいと思ったら戻ることを望んでいるかについては、常にリサーチしておくとういんですね。約5年後にこの施設ができるということですので、今の高校生が大学卒業後に戻ってきたぐらいの時に、何かここでムーブメントが動き出す形になります。高校生が今なにを考えているかということが、この施設の民間機能などに役立つかもしれませんね。大学進学を契機に白河を出てしまった人たちが戻って来づらいついて考えているのだとしたら、そのハードルを少し下げ、戻りやすくする意味での発信もあると思われます。時間が許せば、ご検討いただけましたらと思います。

#### 【委員】

施設計画のほうでお聞きしたいのですが、駐車場関係で約250台、300台近く取るということですが、複合施設を入れた中で、スタッフの方自身も一定の人数が出てきてしまいます。そういった方々の駐車場、実際にマイタウンとか見ていると、スタッフの人が停めてしまって、そうすると、実際に施設へ来た方が停めていただくスペースが意外とないとか、あと、どうしてもご高齢の方とか、小さいお子さん連れの方なんかというのは、例えば立体駐車場というのは、本庁なり、この複合施設に直結するような計画なのか、それとも、やはり一回外に出て、それから施設に入らなくてはいけないのかというのは、現在のところどういった計画なのか教えていただきたいと思います。

#### (事務局)

資料の50ページに、施設の配置計画が載っております。まず立体駐車場は2層3階建てということで150台、矢印が複合施設と繋がっているかと思うのですが、この矢印の意図は、立体駐車場から直接施設に行けるような方策が必要ではないか、という意味合いもありまして、矢印を引いております。ですので、委員がご指摘したように、立体駐車場から直接複合施設に乗り入れるような、そういったことは必要であるというふうに考えております。一方また、その上のオレンジ色については市役所の本庁舎と施設が直接つながるような通路の整備の検討をしております。改めてイメージを申し上げますと、45ページをお開きください。これもイメージスケッチなのですが、本庁舎と複合施設、仮に複合施設がこんな形だとすると、49ページの下に現況写真が載ってい

ます。この同じ角度から整備のイメージをスケッチすると、こんな感じということで、本庁舎と複合施設北側部分を連絡通路で結ぶというような、そんな計画もしてございます。仮に複合施設の建物が3階建てであれば、市役所本庁舎の1階部分と複合施設の2階部分が、この連絡通路で繋がるというようなイメージでございます。

#### 【会長】

スタッフの駐車場と利用者の駐車場の関係に関する質問がありましたが、こちらはいかがですか。

#### （事務局）

行政機能は、いくつか入れる機能に応じて、執務室が入る予定であります。職員はスタッフというふうに捉えれば、職員は自分で駐車場を確保するというルールになりますので、増える要素とすれば、官民連携事業で働くようなスタッフの皆さんというふうなことでございます。そこをどうしていくかは検討していく必要があると思いますが、試算上の台数は、利用者の方とあとは公用車というふうなところを中心に試算をして、合計で300台を確保しようという計画になっております。ただ、イベントが集中すると、300台でまかなえないという側面もあるかもしれません。一方で、コロナ禍の状況で、保健センターでの検診のスタイルを変えました。要は、一度に多くの方が検診するのではなくて、日時を区切って、来場者の方の人数をある程度、例えば1日200人やっていたところを50人ぐらいにして、検診をやった実績もございますので、運用面での工夫も必要です。併せて、マイタウンの利用者の駐車場になっていきますので、そういう位置付けは、引き続き必要なだろうと思います。よって、どのように運用していくかというのは、今後、基本設計、詳細設計に入った段階で検討すべき事項であります。58ページでは、施設の整備に対して管理・運営をどのようにしていくか、というふうな計画も立てなくてはいけないと思っておりますので、駐車場の運用についても、この中で検討していきたいと思っております。

#### 【会長】

新しいモビリティが普及するなど、施設利用者がほぼ車を利用せずに訪れる時代が来るかもしれません。また、来街者はまちなかの大きな駐車場にまずは集まり、そこから街中を循環する、特に交通弱者の方はそのような形で巡る、回遊するという、新たな回遊の仕方もおそらくあるかもしれません。5年も経てば技術も向上するでしょうから、その辺りも見据えて、新しいアイデアが出てくることを期待したいと思います。

#### 【委員】

何年か先の話をしなければいけないわけですね。それで今アフターコロナと言います

けど、その頃はまだWithコロナかもしれません。そういったことも考えると、今ここでこうだというふうに決めることは、実は1年したら間違ったことになる可能性はあるわけですね。そういうことを含めて考えると、これは大変なことだと思うのですね。それはおそらく多くの人の意見を聞くとか、社会の世の中の情勢と言うのでしょうか、それを見ながら変えていかなければいけないと、そういった柔軟性が必要だと思います。

**【委員】**

43ページを見ると、本庁の機能を、複合施設に移動するというような形で書かれていたかと思いますが、それはどの部分が移動して、逆にどのぐらいのスペースを利用する予定なのかというのを、お聞きしたいと思います。

**(事務局)**

まず、4つの行政機能のうち、執務室も含めて複合施設に移るということになりますと、子育て支援機能の中では、こども未来室という子ども支援課と子ども育成課の2つの課になります。もう1点、防災対策機能では、これも執務室として2つあります。生活防災課と環境保全課が、防災機能と並行して、執務室としては移る要素になっています。もう1つ生きがづくり機能として、生涯学習スポーツ課がこの機能と一緒に移っていくというような、本庁の部分では、執務室としては5課ということが考えられるのかなというふうに思われます。

**【委員】**

そうしますと、今の課の動きよりも、少しボリュームを更に増やすような形で窓口が広くなるというか、そのようなイメージですか。

**(事務局)**

例えば子育て支援でいえば、いま相談室と言ってもかなり狭いので、専用の相談室を今よりも面積を拡充するとか、部屋を多く設けるとか、そういったことは必要だろうと思っています。ただ、今お示しできないのが、全体の大きさ・ボリュームしかお示しできていないので、そういう部屋がいくつ必要だとか、オフィススペースがどのぐらい必要だとか、そういう部分は今後、設計の段階で具体的に詰めていきたいと考えています。

**【委員】**

分かりました。ありがとうございます。

**【会長】**

複合施設に移動する部署は、今おっしゃられた5課のみになるのでしょうか。



**(事務局)**

ただ今申し上げたのは、本庁舎から移転する部署のみになります。健康増進機能では、この本庁舎にはないのですけども、保健センターに健康増進課がありますので、そちらは複合施設に移ってくる予定でございます。

**【会長】**

健康増進課が、保健センターからこちらに移ってくるという予定だということです。先ほどの委員にもございましたが、今後の流れによっては、行政の仕組みも変わるかもしれないし、そのことによってはボリュームも変わるのかもしれませんが、今のところはこのような状況になるそうです。

**【委員】**

何年もかかるということ考えた時に、例えば今高校生の人が、卒業して大学生で上京して帰ってきている人たちがいるのですね。3年たって戻るかと思えば、やはり地元で何かをしていきたい、そういう子たちも結構いますので、これだけ良いものができるのであれば、その子たちが今から関わって、出来た後も何年も一緒に関わっていけるような、そういうものがあつたらいいなと思います。やはりあと、一人で暮らしている女の子たち、たまたまなのですけども、自分が東京や関東に行って不安になった時に、親元から離れて心配、自分の進路も心配だし、不安でも来てもらえない、自分もどうしていいか分からないということで、そのまま帰ってきた人がいらっしやいます。その子たちにすれば、東京とかの感覚もあつて、地方だどこの誰々ということで、こんなに扱いが違うのだ、やはりお母さんにすれば、帰ってきたけども、うちから出ないでとか、例えば白河から出たら大変だとか、ということでもかなり缶詰にされたのがあつて、帰ってきてよかったのかとか、そういうことですごく悩まれていて、本当に鬱になりかけていたのですね。そういう子たちにも、あなたが必要ですと伝えながら、白河に帰ってきて、仕事があれば、そういう若い子たちに白河市を盛り上げてもらう、自分たちが立ち上げの時に関わると、すごく大変ですけども、楽しいじゃないですか。そういう気持ちを味わってもらいながら、そういう子たちをもっと表に引っ張り出していくような何かないのかなと思っています。

**(事務局)**

この計画策定に、このタイミングで関わるということは、現状厳しいのかなと考えております。ただ昨年、インタビュー調査をマイタウンでやったところの他に、それも補完の意識調査として、EMANONというコミュニティカフェで高校生が色々な活動をしていることもあつたものですから、アンケート形式で高校生の意見を取り入れ

たという経過がございます。今後、もう少し具体的にになった基本設計あたりのタイミングで、そういう高校生が参画するような、携われるような参画の手法というものを検討したほうがいいのかなというふうに受け止めました。必ずやりますというふうなことは、今の時点では申し上げられないのですが、この施設に関わることができるような、そういう手法について検討していきたいというふうに思います。

#### 【会長】

先程概算事業費の所で、先行事例として須賀川市の t e t t e が挙げりましたが、須賀川市の t e t t e には図書館があるので、その時は具体的なイメージがはっきりしていましたし、かなり早い段階から、中高生対象のワークショップも開催していました。やり方によりますが、どこのタイミングでも入ることは可能だと思います。具体的に集まって何かというのは、このコロナで難しいとしても、何か関わりを持つ手法は色々あるかと思います。是非、この建物に深く関わってほしいという、白河市の事務局サイドから少し歩み寄るといふ姿勢が感じられると、もっとみんなが笑顔になるという所がイメージされやすくなると思われまふ。次の段階になるのですが、そのようなことも是非考えながら進めていただきたく存じます。

#### （事務局）

分かりました。

#### 【会長】

t e t t e の事例ですが、高校生も施設と関わっています。公民館的な機能もあるので、高校生がお金を払って場所を借りているのですよ。例えばバンド活動をしようと思っている高校生がお金を払って音楽室を借りて、10時ぐらいまで使えますので夜遅くまで活動している事例とか、発表会とか文化祭の時に、高校生がお金を払って場所を借りてイベント活動をするところがあると聞いています。開館前から WS などで施設に関わっていることの影響が意外と大きいように感じています。大学生でもリモート授業のため地元に戻ってきている人がいるので、With コロナが続くという委員のご発言もありますように、そのような人たちを施設運用に関わる人材として発掘するという意味では、ある意味ピンチはチャンスという考え方もあると思われまふ。事務局としては、多くの人に関わると、検討項目が増えるということもあるとは存じまふが、やはりみんなが笑顔になる「みんな」といふ所を、最初から裾野を広げておくといふ姿勢を見せるといふ、大変貴重な意見をいただきました。

いかがでしょうか。スケジュールが変わりましたし、元々この基本計画（案）が求められていた内容自体もコロナのせいではないとは言え、若干変わったということもございませう。もう少し明確なものが出てくることを期待された方もおられたとは存じまふが、

それは次の段階に持ち越しながら、もう少し状況を見据えていきたいということもあるようですので、今の段階で話しておきたいこと、気になることがあればお伺いしたいと思います。

今日の段階で特に申し上げることが委員の皆様から無いということですので、ただいまのご意見等について事務局で整理・検討していただきまして、次回、第7回懇談会を予定されているとのことですので、そこで整備基本計画の修正案をお示しいただくこととなりますが、いかがでしょうか。何か他にご発言はございませんか。

ご意見が無いということで、異議なしということで承りました。

では、本日の懇談会につきましては、様々なご意見を賜りましたので、それを踏まえて次回お示し頂ければと思いますので、よろしくお願いたします。

皆様の忌憚のないご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。では、その他につきまして、事務局から連絡事項がございましたら、お願いたします。

## (2) その他

### (事務局)

パブリックコメントと次回の懇談会の日程について、2点申し上げます。まずパブリックコメントについては、当初の予定では、今回の第6回懇談会が終わった後に実施する予定でございました。当初この基本計画は、市民のニーズをできるだけ早く反映していきたいという考えから、基本計画の内容自体も、基本設計の内容も盛り込んだ、より具体的な計画の内容にする予定でございました。ただ、コロナの影響もありまして、また、委員からもお話がありましたが、今内容をがっちり決めてしまうと、それが間違っている可能性もあるというお話もありましたように、今回の基本計画の中身自体は、当初予定していた基本計画よりも先に進んだ内容を盛り込むのではなくて、通常の基本計画と同じように、少し抽象的な表現のものを盛り込んだ内容としております。このまま市民の皆様にお示ししても、抽象的な表現が多いと意見も出しづらいというところもありますので、もっと全容が明らかになった段階、例えば施設の外観だとか、民間機能だとか、全容が明らかになった段階、今後の基本設計を検討していく段階、基本設計の完成より前でのパブリックコメントの実施も検討しております。なお、基本設計の策定では、メンバーは変わるとは思いますが、同様に懇談会を開催いたしまして、民間委員の意見を伺うとともに、実際に施設を利用する方々からヒアリング、例えば公民館を利用する団体の方とかのヒアリングを行うなど、民意を反映させていきたいと考えております。現在の段階ではパブリックコメントは実施せずに、もっと全容が明らかになった段階で実施した方がいいのか、若しくは、基本計画の策定前に実施した方がいいのかについては、今後庁内で検討してまいります。

また、この計画がどういった議論を進めてきたのかということも、ホームページで掲載をしていますので、12月末を目途に、この計画のほう、最後の懇談会を経て成案化したいというふうに思っております。その後については、市民の皆様に対しては、この計画の概要も、一旦お示しをしたいというふうに考えております。

最後に、次回の懇談会については、12月20日頃に開催を予定したいと思っております。日程が決まり次第、できるだけ早く皆様にお伝えしたいと思っております。

#### **【会長】**

年末も近くなってきていますので、お忙しい委員の皆さんは、スケジュールが入ってしまう可能性もありますから、早めにスケジュールを決めていただければと思います。

また、パブリックコメントの実施時期は今後検討していくということです。基本計画策定前に実施しない場合は、58ページの全体スケジュールで見ますと、令和3年度に基本設計が始まるとありますが、この矢印の後半ではなく、なるべく早い段階の所で1回、設計として形が決まる前の段階でパブリックコメントを実施したいというご意向を受け止めました。皆様から特にご異論なければ、この方向でまとめたいと思っております。

本日の私の任務は、これで終わらせていただきます。予定していたものは以上ということになります。他に委員の皆さんから何かございますか。

では、今お話がありましたように、次回は12月20日頃という日程ですが、こちらが最後の懇談会になります。事務局は本日の意見等を取りまとめて、計画の最終案の策定ということとなります。よろしく願いいたします。

それでは、事務局に進行をお返しいたします。皆さんありがとうございました。

#### **(事務局)**

以上をもちまして、第6回白河市複合施設整備基本計画検討懇談会を閉会いたします。委員の皆様には長時間に渡り、ありがとうございました。